

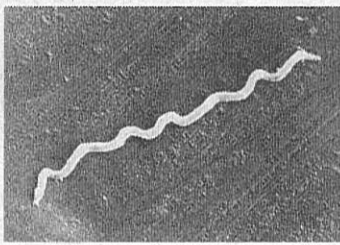
# コロナ禍で感染者が増えている梅毒

県感染症情報センター

## 声なき感染症を知る

◆93◆

新型コロナウイルスの流行で、マスク着用などの感染対策が強化され、インフルエンザなど他の感染症が減少傾向にある中、梅毒感染者数は増加傾向となっています。今回は、梅毒についてお話しします。



梅毒の原因である、らせんの細い糸状の形をした梅毒トレポネーマの電子顕微鏡画像(出典・国立感染症研究所のホームページ)

感染症  
梅毒は、「梅毒トレポネーマ」という細菌を原因とする感染症で、主に性的接触により感染します。

症状は、感染から3〜6週間の潜伏期間ののち、感染がおきた部位(主

に陰部、口唇部、口腔内、肛門等)にしこりができたり、それを放置すると手のひら、足の裏、体全体にできる、うっすらと赤い発疹(ほっしん)が特徴的ですが、無症状や、認知症、難聴

に陰部、口唇部、口腔内、肛門等)にいつたん減少傾向がみられました。が、昨年になって増加し、2021年1月〜12月5日の速報値で7134例となりまりました。全国的に増加しており、特に東京や大阪、その周辺地域か

1948年以降、梅毒患者報告数は、小流行を認めながら全体として減少傾向でしたが、2010年以降増加に転じ、2018年には7000例近くの症例が報告されました。その後、

## 都市部の若者中心に新たな治療薬が承認

など、さまざまな病態を呈することがあります。

一度梅毒に感染しても、感染を防ぐ免疫は獲得できないので、リスクとなる行為をすれば再感染する可能性があります。

らの報告が多いです。  
▽感染の中心は若者  
感染者は特に20〜50代の男性と、20〜30代の女性を中心となっており、男女ともに異性間性交渉が主な感染経路です。  
また、診断した医師が保健所に届け

出す用紙(発生届)においては、リスク行動である性風俗の従事、利用歴や、過去の感染歴(治療歴)を確認しており、これらのハイリスクな方は、特に感染予防に気をつけましょう。

▽妊婦に感染すると胎児に悪影響  
発生届には、妊娠の有無の確認も行なっています。妊娠中の母体への適切な抗菌薬治療で、母子感染を防げることなどから、公衆衛生上、重点的に対策をすべき疾患です。妊婦が感染すると、菌は胎盤を通じて胎児に感染し、流産、死産や、目や耳の障害を起こす

先天梅毒を発症する可能性があります。先天梅毒を予防するには、梅毒スクリーニング検査を含む妊婦健診の推進が重要であり、妊娠中に少しでも心当たりや疑わしい症状があった際の、積極的な梅毒検査が勧められます。

▽適切な感染予防と早期治療が重要  
感染者数増加の要因として、性感染症に対する知識や予防意識の欠如、性風俗やアプリなどを利用した不特定多数との性行為などが考えられています。梅毒の予防には、コンドームの使用が有効です。ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などに病変があれば、例えばオーラルセックスでも感染

がおこります。  
皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控え、早めに医療機関を受診しましょう。さらなる広がりを防ぐためにも、医療機関では早期診断、早期治療、ハイリスクと考えられるパートナーへの性感染予防教育や検査を実施することが重要です。  
また、HIVやクラミジアなど他の性感染症の感染リスクが高く、複数の性感染症に感染することがある中で、他の性感染症の検査も勧められます。

▽新たな治療薬が承認  
2021年9月に、早期梅毒の世界的な標準治療薬である筋肉注射剤の、国内での製造販売が承認されました。これまでは飲み薬や点滴で数週間の治療が必要のため、服薬遵守低下による治療失敗がデメリットでしたが、この筋肉注射剤では、梅毒の中で最も患者数が多い、感染から1年未満の早期梅毒に対して、1回投与で治療効果が期待できること、これまで海外で梅毒患者の治療に貢献してきた実績があること、これまで耐性菌の報告がないこと、といったメリットがあります。

また、診断した医師が保健所に届け